



《将来に向けた取組方針》

生物多様性に及ぼす影響の回避、最小化を目指し以下の取組みを推進する。

- ①生物多様性に配慮した設計・施工に努める。また、脱炭素化や資源循環及び汚染の予防などの環境配慮を推進する。
- ②生態系に及ぼす影響を考慮し、生物多様性の保全と持続可能な利用に配慮した調達に努める。
- ③生物多様性の保全、回復及び創出のための情報や技術的知見の蓄積及び技術開発に努める。
- ④社員の意識・知識の向上と社外のステークホルダーとの相互理解・協力を目指し、環境コミュニケーション、ESDを社内外に推進する。

〈具体的取組み事例〉

①トンネル工事でのゲンジボタルの保全

蛍の保全活動として、地元自治会により幼虫の餌となるカワニナの養殖をしていたが、当初の計画は、この養殖池をなくすようになっていた。地元の要請もあり、作業所で工事終了までの3年間に渡り、カワニナを移設し飼育を行った。工事終了後には、専用水路と養殖池を整備し地元自治会に寄贈し、蛍の舞う里山の復元に貢献。

養殖場を3年間管理



②市街地のマンション工事における環境配慮施工

・外構工事において、トカゲなどが生息しやすい環境にするため、金属製の籠に自然石を積み上げたものを設置。また、野鳥のため、水盤と樹木に巣箱を設置し、樹木が枯れない様に自動タイマーによる散水や、樹木名と簡単な解説を載せた樹木プレートを設置。

・杭工事等から発生する土砂を現場内で利用することで、残土処分や購入土を削減。運搬車両の台数を減らすことでCO₂の削減に貢献。



〈今後の課題〉

当社は、国土保全・社会資本整備・街づくりにおいて、従来から自然環境の保全や創出に取り組んでいるが、生物多様性の取組みをより一層推進するために、

- ①環境配慮の技術開発、
- ②現場技術者への普及啓蒙活動、
- ③環境配慮施工における顧客との相互理解

以上の3項目の促進が課題。

〈社会に向けたメッセージ〉

自社にとって、生物多様性への取組をひとことで表現すると

「人をつなぐ 未来につなぐ」